

# ダイワ日本国債 15-20 年ラダー型ファンド -SLトレード-

## ダイワ日本国債 15-20 年ラダー型ファンド・ マネーポートフォリオ -SLトレード-

### 運用報告書(全体版)

第11期(決算日 2018年11月12日)

第12期(決算日 2019年2月12日)

(作成対象期間 2018年8月11日~2019年2月12日)

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信/国内/債券	
信託期間	約10年間(2016年2月23日~2026年2月10日)	
運用方針	ラダー型 ファンド	安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。
	マネーポート フォリオ	安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。
主要 投資対象	ラダー型 ファンド	わが国の国債
	マネーポート フォリオ	イ、ダイワ・マネースtock・マザー ファンドの受益証券 口、円建ての債券
組入制限	ラダー型 ファンド	・株式組入上限比率は純資産総額の10% 以下
	マネーポート フォリオ	・マザーファンド組入上限比率は無制限 ・株式組入上限比率は純資産総額の10% 以下
分配方針	ラダー型 ファンド	分配対象額は、経費控除後の配当等収益 と売買益(評価益を含みます。)等とし、 原則として、継続的な分配を行なうこと を目標に分配金額を決定します。ただし、 分配対象額が少額の場合には、分配 を行なわないことがあります。
	マネーポート フォリオ	分配対象額は、経費控除後の配当等収益 と売買益(評価益を含みます。)等とし、 原則として、配当等収益等を中心に分配 します。ただし、配当等収益等の額が少 額の場合には、分配を行なわないことが あります。

### 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、(ラダー型ファンド)わが国の国債に投資しラダー型運用を行なうことで、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざし、(マネーポートフォリオ)円建ての債券に投資し、安定した収益の確保をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

## 大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号  
お問い合わせ先(コールセンター)  
TEL 0120-106212  
(営業日の9:00~17:00)  
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

<4622>  
<4623>

ラダー型ファンド

最近10期の運用実績

決算期	基準価額			ダイワ・ボンド・インデックス (DBI) 国債指数		公社債 組入率	債券先物 比率	純資産 総額
	(分配落)	税込み 分配金	期中 騰落率	(参考指数)	期中 騰落率			
	円	円	%		%	%	%	百万円
3 期末 (2016年11月10日)	10,366	20	△ 1.5	10,221	△ 0.7	99.0	—	5,178
4 期末 (2017年 2月10日)	9,960	20	△ 3.7	10,022	△ 1.9	98.9	—	9,796
5 期末 (2017年 5月10日)	10,055	20	1.2	10,068	0.5	98.8	—	9,979
6 期末 (2017年 8月10日)	10,109	20	0.7	10,068	0.0	98.8	—	10,781
7 期末 (2017年11月10日)	10,097	20	0.1	10,098	0.3	99.3	—	7,978
8 期末 (2018年 2月13日)	10,092	20	0.1	10,099	0.0	99.2	—	7,746
9 期末 (2018年 5月10日)	10,169	20	1.0	10,144	0.5	99.0	—	6,530
10 期末 (2018年 8月10日)	10,037	20	△ 1.1	10,088	△ 0.6	98.9	—	6,451
11 期末 (2018年11月12日)	9,968	20	△ 0.5	10,075	△ 0.1	99.7	—	6,367
12 期末 (2019年 2月12日)	10,307	20	3.6	10,268	1.9	98.6	—	5,942

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) ダイワ・ボンド・インデックス (DBI) 国債指数 (参考指数) は、ダイワ・ボンド・インデックス (DBI) 国債指数の原データをもとに、当ファンド設定日の前営業日を10,000として大和投資信託が計算したものです。ダイワ・ボンド・インデックス (DBI) 国債指数は、株式会社大和総研が公表している日本国債のパフォーマンス・インデックスです。

(注3) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

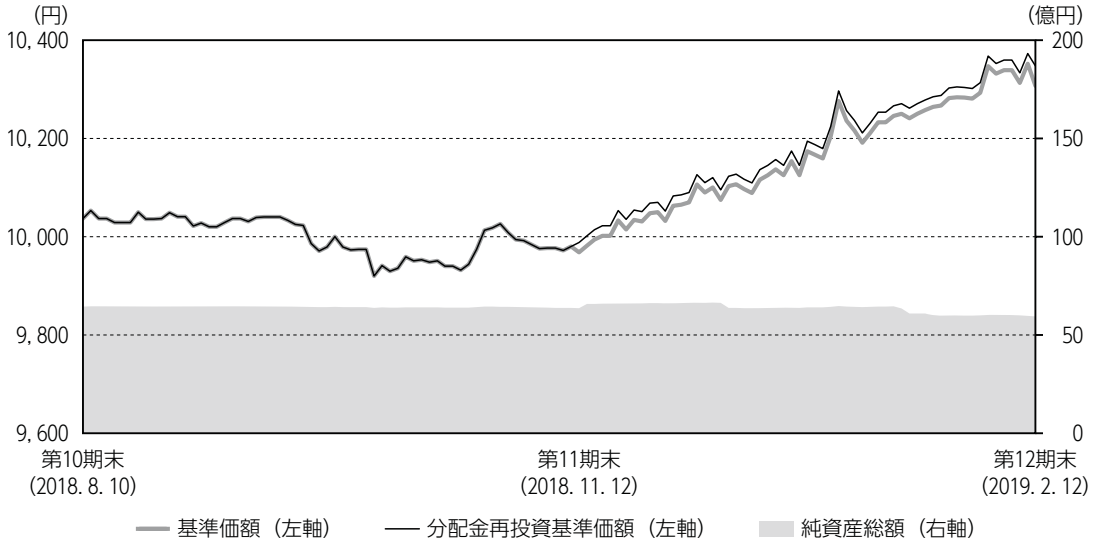
(注4) 公社債組入比率は新株予約権付社債券 (転換社債券) を除きます。

(注5) 債券先物比率は買建比率－売建比率です。



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



\* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

\* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

### 基準価額・騰落率

第11期首：10,037円

第12期末：10,307円（既払分配金40円）

騰落率：3.1%（分配金再投資ベース）

### 基準価額の主な変動要因

日本国債に投資した結果、利息収入に加え、債券の金利が低下（価格は上昇）したことがプラス要因となり、基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ダイワ日本国債15-20年ラダー型ファンド - S L トレード-

	年 月 日	基 準 価 額		ダイワ・ボンド・インデックス (DBI) 国債指数		公 社 債 組 入 比 率	債 券 先 物 比 率
		騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率			
第11期	(期首) 2018年8月10日	円 10,037	% —	10,088	% —	% 98.9	% —
	8月末	10,028	△ 0.1	10,085	△ 0.0	98.8	—
	9月末	9,979	△ 0.6	10,058	△ 0.3	98.9	—
	10月末	9,994	△ 0.4	10,075	△ 0.1	99.0	—
	(期末) 2018年11月12日	9,988	△ 0.5	10,075	△ 0.1	99.7	—
第12期	(期首) 2018年11月12日	9,968	—	10,075	—	99.7	—
	11月末	10,065	1.0	10,121	0.5	98.9	—
	12月末	10,204	2.4	10,204	1.3	98.9	—
	2019年1月末	10,293	3.3	10,248	1.7	99.1	—
	(期末) 2019年2月12日	10,327	3.6	10,268	1.9	98.6	—

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

## 投資環境について

(2018. 8. 11 ~ 2019. 2. 12)

### 国内債券市況

当作成期の国内長期金利は、低下圧力が優勢となりました。

国内長期金利は、2018年9月に、米国金利の上昇や株高などを受けて上昇する場面も見られました。しかしその後は、米国の景気減速が懸念されるなど市場のリスク回避姿勢が高まる中で、低下基調で推移しました。

## 前作成期末における「今後の運用方針」

日本国債に投資し利息収入を確保するとともに、信託財産の着実な成長をめざして運用を行います。

運用にあたっては、残存期間が15年程度から20年程度までの日本国債に投資し、残存期間ごと（1年単位）の日本国債の投資金額がほぼ同程度となるように組み入れることをめざします。

日本国債の組入比率は通常の状態を維持することを基本とします。

## ポートフォリオについて

(2018. 8. 11 ~ 2019. 2. 12)

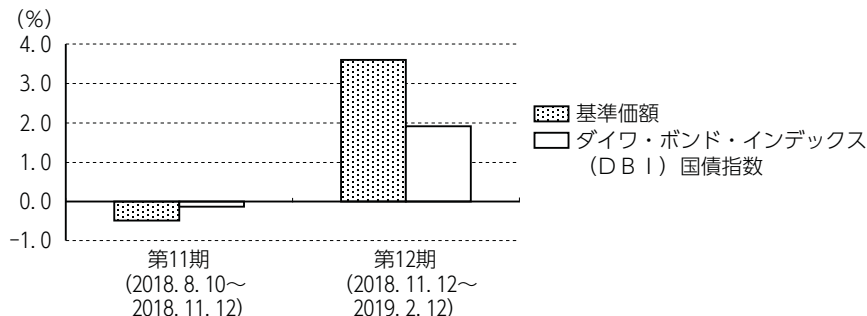
日本国債に投資し利息収入を確保するとともに、信託財産の着実な成長をめざして運用を行いました。

運用にあたっては、残存期間が15年程度から20年程度までの日本国債に投資し、残存期間ごと（1年単位）の日本国債の投資金額がほぼ同程度となるように組み入れました。

日本国債の組入比率は高位を維持しました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。  
以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



## 分配金について

当作成期の1万口当り分配金(税込み)は下記「分配原資の内訳(1万口当り)」の「当期分配金(税込み)」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程(1万口当り)」をご参照ください。  
なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### 分配原資の内訳(1万口当り)

項 目		第11期	第12期
		2018年8月11日 ~2018年11月12日	2018年11月13日 ~2019年2月12日
<b>当期分配金(税込み)</b>	<b>(円)</b>	<b>20</b>	<b>20</b>
対基準価額比率	(%)	0.20	0.19
当期の収益	(円)	17	20
当期の収益以外	(円)	2	—
翌期繰越分配対象額	(円)	241	306

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

## ■収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	第11期		第12期	
(a) 経費控除後の配当等収益	✓	17.45円	✓	25.69円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益		0.00		4.43
(c) 収益調整金		214.55		270.60
(d) 分配準備積立金	✓	29.36		25.99
(e) 当期分配対象額 (a + b + c + d)		261.37		326.72
(f) 分配金		20.00		20.00
(g) 翌期繰越分配対象額 (e - f)		241.37		306.72

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



## 今後の運用方針

日本国債に投資し利息収入を確保するとともに、信託財産の着実な成長をめざして運用を行います。

運用にあたっては、残存期間が15年程度から20年程度までの日本国債に投資し、残存期間ごと（1年単位）の日本国債の投資金額がほぼ同程度となるように組み入れることをめざします。

日本国債の組入比率は通常の状態での高位を維持することを基本とします。

## 1 万口当りの費用の明細

項 目	第11期～第12期 (2018. 8. 11～2019. 2. 12)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	15円	0.151%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 <b>当作成期中の平均基準価額は10,084円です。</b>
(投 信 会 社)	(7)	(0.069)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(7)	(0.069)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 銀 行)	(1)	(0.014)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0.003	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
( 監 査 費 用)	(0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
( そ の 他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	16	0.154	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。



■売買および取引の状況

公 社 債

(2018年8月11日から2019年2月12日まで)

決 算 期		第 11 期 ~ 第 12 期	
		買 付 額	売 付 額
国内	国債証券	千円 1,424,225	千円 2,118,723 ( )

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。  
 (注2) ( )内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。  
 (注3) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

公 社 債

(2018年8月11日から2019年2月12日まで)

第 11 期 ~ 第 12 期			
買 付		売 付	
銘 柄	金 額	銘 柄	金 額
	千円		千円
29 30年国債 2.4% 2038/9/20	1,305,851	146 20年国債 1.7% 2033/9/20	1,272,237
162 20年国債 0.6% 2037/9/20	31,000	162 20年国債 0.6% 2037/9/20	177,320
154 20年国債 1.2% 2035/9/20	30,091	29 30年国債 2.4% 2038/9/20	173,443
158 20年国債 0.5% 2036/9/20	29,750	158 20年国債 0.5% 2036/9/20	172,527
150 20年国債 1.4% 2034/9/20	27,531	154 20年国債 1.2% 2035/9/20	164,613
		150 20年国債 1.4% 2034/9/20	158,582

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。  
 (注2) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

(1)国内（邦貨建）公社債（種類別）

作 成 期	第 12 期 末						
	区 分	額 面 金 額	評 価 額	組入比率	うちB B格 以下組入 比 率	残存期間別組入比率	
5年以上						2年以上	2年未満
	千円	千円	%	%	%	%	%
国債証券	5,138,500	5,858,168	98.6	—	98.6	—	—

(注1) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。  
 (注2) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。  
 (注3) 評価額および格付情報については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(2)国内 (邦貨建) 公社債 (銘柄別)

区 分		銘 柄	第 12 期 末	年 利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日
国債証券		150 20年国債		%	千円	千円	
		154 20年国債		1.4000	995,700	1,171,132	2034/09/20
		158 20年国債		1.2000	1,021,800	1,171,841	2035/09/20
		162 20年国債		0.5000	1,142,000	1,174,284	2036/09/20
		162 20年国債		0.6000	1,128,000	1,173,142	2037/09/20
	29 30年国債		2.4000	851,000	1,167,767	2038/09/20	
合 計	銘柄数 金 額	5銘柄			5,138,500	5,858,168	

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2019年2月12日現在

項 目	第 12 期 末	
	評 価 額	比 率
公社債	千円 5,858,168	% 97.5
コール・ローン等、その他	150,384	2.5
投資信託財産総額	6,008,552	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2018年11月12日)、(2019年2月12日) 現在

項 目	第11期末	第12期末
(A) 資産	6,391,933,832円	6,008,552,920円
コール・ローン等	35,209,641	126,912,753
公社債 (評価額)	6,347,106,546	5,858,168,125
未収利息	9,554,523	23,198,544
前払費用	63,122	273,498
(B) 負債	24,532,397	66,490,882
未払収益分配金	12,775,528	11,530,456
未払解約金	6,749,106	50,018,050
未払信託報酬	4,916,049	4,762,392
その他未払費用	91,714	179,984
(C) 純資産総額 (A - B)	6,367,401,435	5,942,062,038
元本	6,387,764,456	5,765,228,074
次期繰越損益金	△ 20,363,021	176,833,964
(D) 受益権総口数	6,387,764,456口	5,765,228,074口
1万円口当り基準価額 (C/D)	9,968円	10,307円

\* 第10期末における元本額は6,427,742,627円、当作成期間 (第11期~第12期) 中における追加設定元本額は222,517,789円、同解約元本額は885,032,342円です。

\* 第12期末の計算口数当りの純資産額は10,307円です。

■損益の状況

第11期 自2018年8月11日 至2018年11月12日  
第12期 自2018年11月13日 至2019年2月12日

項 目	第11期	第12期
(A) 配当等収益	16,155,930円	15,161,604円
受取利息	16,166,383	15,172,714
支払利息	△ 10,453	△ 11,110
(B) 有価証券売買損益	△ 41,947,219	196,440,960
売買益	382,665	212,950,088
売買損	△ 42,329,884	△ 16,509,128
(C) 信託報酬等	△ 5,008,490	△ 4,857,808
(D) 当期損益金 (A + B + C)	△ 30,799,779	206,744,756
(E) 前期繰越損益金	△ 155,788,285	△ 174,390,769
(F) 追加信託差損益金	179,000,571	156,010,433
(配当等相当額)	( 113,661,141)	( 103,060,314)
(売買損益相当額)	( 65,339,430)	( 52,950,119)
(G) 合計 (D + E + F)	△ 7,587,493	188,364,420
(H) 収益分配金	△ 12,775,528	△ 11,530,456
次期繰越損益金 (G + H)	△ 20,363,021	176,833,964
追加信託差損益金	179,000,571	156,010,433
(配当等相当額)	( 113,661,141)	( 103,060,314)
(売買損益相当額)	( 65,339,430)	( 52,950,119)
分配準備積立金	17,131,338	20,823,531
繰越損益金	△ 216,494,930	—

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示していません。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程 (総額)」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	第11期	第12期
(a) 経費控除後の配当等収益	11,147,440円	14,813,299円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0	2,555,267
(c) 収益調整金	137,053,352	156,010,433
(d) 分配準備積立金	18,759,426	14,985,421
(e) 当期分配対象額 (a+b+c+d)	166,960,218	188,364,420
(f) 分配金	12,775,528	11,530,456
(g) 翌期繰越分配対象額 (e-f)	154,184,690	176,833,964
(h) 受益権総口数	6,387,764,456口	5,765,228,074口

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ		
1万口当り分配金	第11期	第12期
		20円

●<分配金再投資コース>をご利用の方の税引き分配金は、決算日現在の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

分配金の課税上の取扱いについて

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。
- ・普通分配金については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行なわれ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税を選択することもできます。
- ・法人の受益者の場合、税率が異なります。
- ・税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。
- ・課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

マネーポートフォリオ

最近10期の運用実績

決算期	基準価額				公社債 組入比率	債券先物 比率	純資産 総額
	(分配落)	税 分	込 配	み 金			
	円		円		%	%	百万円
3 期末 (2016年11月10日)	9,997		0	△	0.0	17.5	220
4 期末 (2017年 2月10日)	9,995		0	△	0.0	38.5	136
5 期末 (2017年 5月10日)	9,993		0	△	0.0	24.7	115
6 期末 (2017年 8月10日)	9,991		0	△	0.0	0.3	115
7 期末 (2017年11月10日)	9,990		0	△	0.0	—	918
8 期末 (2018年 2月13日)	9,989		0	△	0.0	—	628
9 期末 (2018年 5月10日)	9,983		0	△	0.1	—	56
10 期末 (2018年 8月10日)	9,980		0	△	0.0	0.4	56
11 期末 (2018年11月12日)	9,978		0	△	0.0	—	56
12 期末 (2019年 2月12日)	9,976		0	△	0.0	—	158

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 公社債および債券先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）を除きます。

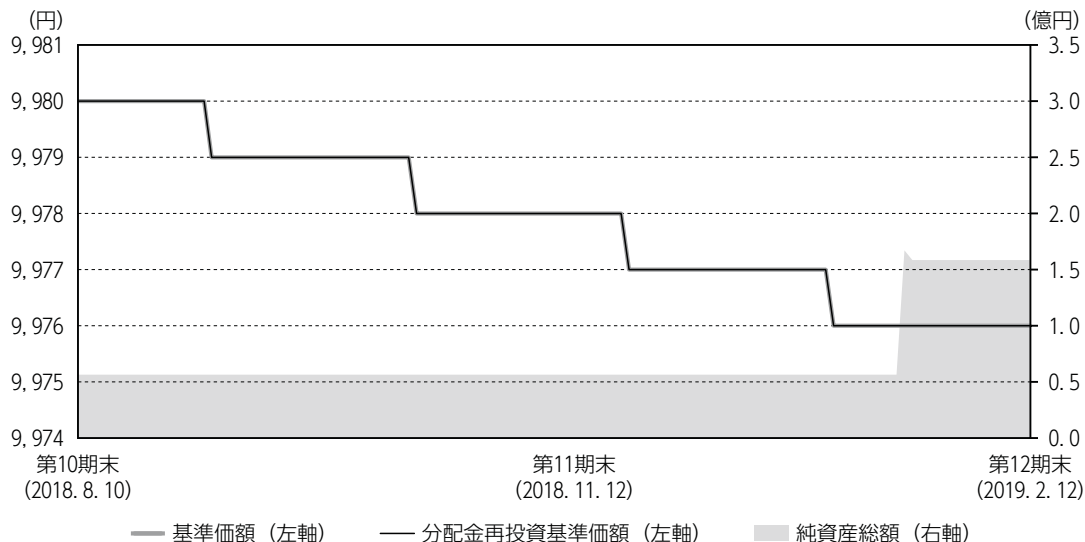
(注4) 債券先物比率は買建比率－売建比率です。

(注5) 当ファンドは、ダイワ日本国債15-20年ラダー型ファンド - S L トレーダーの資金をスイッチングにより一時滞留させる受け皿としての役割を持ったファンドであり、マザーファンドおよび短期金融資産による安定運用を行います。そのため、ベンチマークおよび参考指数はありません。



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



\* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

\* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

#### 基準価額・騰落率

第11期首：9,980円

第12期末：9,976円（既払分配金0円）

騰落率：△0.0%（分配金再投資ベース）

#### 基準価額の主な変動要因

「ダイワ・マネーストック・マザーファンド」の受益証券を通じて投資したコール・ローン等の利回りがマイナス圏で推移したことなどから、基準価額は下落しました。

ダイワ日本国債15-20年ラダー型ファンド・マネーポートフォリオ - S L トレーダー

	年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 率 組 入 比	債 券 先 物 率 比
		円	騰 落 率 %		
第11期	(期首) 2018年 8月10日	9,980	—	0.4	—
	8月末	9,980	0.0	—	—
	9月末	9,979	△ 0.0	—	—
	10月末	9,978	△ 0.0	—	—
	(期末) 2018年11月12日	9,978	△ 0.0	—	—
第12期	(期首) 2018年11月12日	9,978	—	—	—
	11月末	9,977	△ 0.0	—	—
	12月末	9,977	△ 0.0	—	—
	2019年 1月末	9,976	△ 0.0	—	—
	(期末) 2019年 2月12日	9,976	△ 0.0	—	—

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

## 投資環境について

(2018. 8. 11 ~ 2019. 2. 12)

### 国内短期金融市況

当作成期を通じて、日銀は長短金利操作付き量的・質的金融緩和を維持しました。この金融政策を背景に、国庫短期証券（3カ月物）の利回りおよび無担保コール翌日物金利はマイナス圏で推移しました。

## 前作成期末における「今後の運用方針」

### 当ファンド

「ダイワ・マネースtock・マザーファンド」の受益証券へ投資を行います。

### ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、安定的な運用を行います。

## ポートフォリオについて

(2018. 8. 11 ~ 2019. 2. 12)

### 当ファンド

「ダイワ・マネースtock・マザーファンド」の受益証券へ投資を行いました。

### ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、コール・ローン等による運用を行いました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

## 分配金について

第11期および第12期は、経費控除後の配当等収益が計上できなかったため、収益分配を見送らせていただきました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### 分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	第11期	第12期
	2018年8月11日 ～2018年11月12日	2018年11月13日 ～2019年2月12日
<b>当期分配金（税込み）</b> (円)	—	—
対基準価額比率 (%)	—	—
当期の収益 (円)	—	—
当期の収益以外 (円)	—	—
翌期繰越分配対象額 (円)	0	0

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。



## 今後の運用方針

### 当ファンド

「ダイワ・マネースtock・マザーファンド」の受益証券へ投資を行います。

### ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

今後も現在の低金利環境が継続した場合は、ファンド全体の損益がマイナスとなり、基準価額が下落することが予想されます。投資家のみなさまにおかれましては、ご留意くださいますようお願い申し上げます。



## 1 万口当りの費用の明細

項 目	第11期～第12期 (2018. 8. 11～2019. 2. 12)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	—円	—%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は9,978円です。
売買委託手数料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	2	0.022	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	(0)	(0.000)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ そ の 他 ）	(2)	(0.022)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	2	0.022	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2018年8月11日から2019年2月12日まで)

決算期	第11期～第12期			
	設定		解約	
	□数	金額	□数	金額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	109,831	110,062	8,554	8,572

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

親投資信託残高

種類	第10期末	第12期末	
	□数	□数	評価額
	千口	千口	千円
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	56,086	157,363	157,693

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2019年2月12日現在

項目	第12期末	
	評価額	比率
	千円	%
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	157,693	99.5
コール・ローン等、その他	792	0.5
投資信託財産総額	158,486	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2018年11月12日)、(2019年2月12日) 現在

項目	第11期末	第12期末
(A) 資産	56,497,477円	158,486,221円
コール・ローン等	282,477	792,553
ダイワ・マネースtock・マザーファンド(評価額)	56,215,000	157,693,668
(B) 負債	94	220
その他未払費用	94	220
(C) 純資産総額(A-B)	56,497,383	158,486,001
元本	56,620,995	158,866,384
次期繰越損益金	△ 123,612	△ 380,383
(D) 受益権総口数	56,620,995口	158,866,384口
1万口当り基準価額(C/D)	9,978円	9,976円

\* 第10期末における元本額は56,620,995円、当作成期間(第11期～第12期)中における追加設定元本額は110,881,479円、同解約元本額は8,636,090円です。

\* 第12期末の計算口数当りの純資産額は9,976円です。

\* 第12期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は380,383円です。

■損益の状況

第11期 自2018年8月11日 至2018年11月12日  
第12期 自2018年11月13日 至2019年2月12日

項目	第11期	第12期
(A) 配当等収益	—	△ 39円
支払利息	—	△ 39
(B) 有価証券売買損益	△ 11,218	△ 10,584
売買益	—	578
売買損	△ 11,218	△ 11,162
(C) 信託報酬等	△ 94	△ 126
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 11,312	△ 10,749
(E) 前期繰越損益金	△ 63,722	△ 71,165
(F) 追加信託差損益金	△ 48,578	△ 298,469
(配当等相当額)	(△ 6,148)	(△ 17,758)
(売買損益相当額)	(△ 42,430)	(△ 280,711)
(G) 合計(D+E+F)	△ 123,612	△ 380,383
次期繰越損益金(G)	△ 123,612	△ 380,383
追加信託差損益金	△ 48,578	△ 298,469
(配当等相当額)	(△ 6,148)	(△ 17,758)
(売買損益相当額)	(△ 42,430)	(△ 280,711)
分配準備積立金	257	244
繰越損益金	△ 75,291	△ 82,158

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示していません。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程(総額)」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程 (総額)

項 目	第11期	第12期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0	0
(c) 収益調整金	0	0
(d) 分配準備積立金	257	244
(e) 当期分配対象額 (a+b+c+d)	257	244
(f) 分配金	0	0
(g) 翌期繰越分配対象額 (e-f)	257	244
(h) 受益権総口数	56,620,995口	158,866,384口

## ダイワ・マネーストック・マザーファンド

### <補足情報>

当ファンド（ダイワ日本国債15-20年ラダー型ファンド・マネーポートフォリオ - S Lトレーダー）が投資対象としている「ダイワ・マネーストック・マザーファンド」の決算日（2018年12月10日）と、当ファンドの決算日が異なっておりますので、当ファンドの第12期の決算日（2019年2月12日）現在におけるダイワ・マネーストック・マザーファンドの組入資産の内容等を19ページに併せて掲載いたしました。

### ■ダイワ・マネーストック・マザーファンドの主要な売買銘柄

2018年8月11日～2019年2月12日における主要な売買銘柄はありません。

### ■組入資産明細表

2019年2月12日現在、有価証券等の組み入れはありません。

# ダイワ・マネースtock・マザーファンド

## 運用報告書 第9期 (決算日 2018年12月10日)

(作成対象期間 2017年12月12日～2018年12月10日)

ダイワ・マネースtock・マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

### ★当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。
主要投資対象	円建ての債券
株式組入制限	純資産総額の10%以下

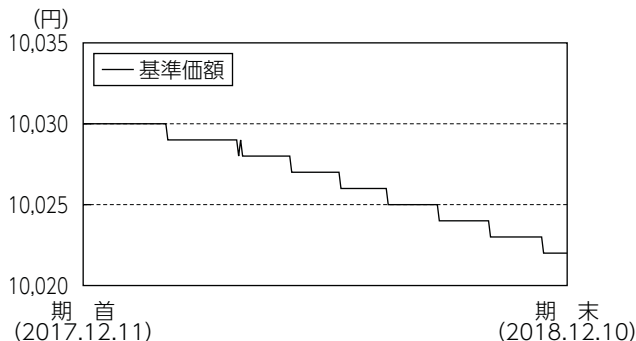
## 大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

■当作成期中の基準価額と市況等の推移



年 月 日	基準 価 額		公 社 債 組 入 比 率
	騰 落 率	騰 落 率	
(期首)2017年12月11日	円	%	%
	10,030	-	-
12月末	10,030	0.0	-
2018年 1 月末	10,030	0.0	-
2 月末	10,029	△0.0	0.5
3 月末	10,029	△0.0	-
4 月末	10,028	△0.0	-
5 月末	10,027	△0.0	-
6 月末	10,026	△0.0	-
7 月末	10,025	△0.0	-
8 月末	10,025	△0.0	-
9 月末	10,024	△0.1	-
10 月末	10,023	△0.1	-
11 月末	10,022	△0.1	-
(期末)2018年12月10日	10,022	△0.1	-

(注1) 騰落率は期首比。  
 (注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券(転換社債券)および債券先物を除きます。  
 (注3) 当ファンドは、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なっており、ベンチマークおよび参考指数はありません。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：10,030円 期末：10,022円 騰落率：△0.1%

【基準価額の主な変動要因】

マイナス金利環境が継続したことなどから、基準価額は下落しました。

◆投資環境について

○国内短期金融市場

当作成期首より、日銀は長短金利操作付き量的・質的金融緩和を維持し、2018年7月には金融緩和継続のための枠組み強化を決定しました。このような日銀の金融政策を背景に、国庫短期証券(3カ月物)の利回りおよび無担保コール翌日物金利はマイナス圏で推移しました。

◆前作成期末における「今後の運用方針」

流動性と資産の安全性に配慮し、安定的な運用を行います。

◆ポートフォリオについて

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等による運用を行いました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

《今後の運用方針》

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

■1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料	-円
有価証券取引税	-
その他費用 (その他)	4 (4)
合 計	4

(注1) 費用の項目および算出法については前掲の「1万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。  
 (注2) 項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

■売買および取引の状況

公 社 債

(2017年12月12日から2018年12月10日まで)

		買 付 額	売 付 額
国		千円	千円
内	国債証券	570,003	(570,000)

(注1) 金額は受渡し代金(経過利子分は含まれておりません)。  
 (注2) ( )内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。  
 (注3) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

公 社 債

(2017年12月12日から2018年12月10日まで)

当		期	
買	付	売	付
銘	柄 金 額	銘	柄 金 額
	千円		千円
723	国庫短期証券 2018/3/5		220,001
757	国庫短期証券 2018/8/13		200,001
731	国庫短期証券 2018/7/10		150,000

(注1) 金額は受渡し代金(経過利子分は含まれておりません)。  
 (注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

当作成期末における有価証券等の組み入れはありません。

■投資信託財産の構成

2018年12月10日現在

項目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
コール・ローン等、その他	41,081,960	100.0
投資信託財産総額	41,081,960	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨てる。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2018年12月10日現在

項目	当 期 末
<b>(A) 資産</b>	<b>41,081,960,031円</b>
コール・ローン等	41,081,960,031
<b>(B) 負債</b>	<b>22,652,366</b>
未払解約金	20,000,000
その他未払費用	2,652,366
<b>(C) 純資産総額(A - B)</b>	<b>41,059,307,665</b>
元本	40,969,233,796
次期繰越損益金	90,073,869
<b>(D) 受益権総口数</b>	<b>40,969,233,796口</b>
1万口当り基準価額(C/D)	10,022円

\* 期首における元本額は30,015,878,475円、当作成期間中における追加設定元本額は79,229,641,363円、同解約元本額は68,276,286,042円です。

\* 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額は、ダイワ米固担保付債権ファンド(為替ヘッジあり) 3,021,993円、ダイワ米固担保付債権ファンド(為替ヘッジなし) 1,018,149円、ダイワ米国バンクローン・ファンド(為替ヘッジあり) 2014-07 9,963円、ダイワ米国バンクローン・ファンド(為替ヘッジあり) 2014-09 9,963円、ダイワ米国バンクローン・ファンド(為替ヘッジあり) 2014-11 9,962円、ロボット・テクノロジ関連株ファンド - ロボテック-947,268円、ダイワ/ミレアセット・インド株ファンド-インドの匠-29,910,270円、ワールド・フィンテック革命ファンド(為替ヘッジあり) 998円、ワールド・フィンテック革命ファンド(為替ヘッジなし) 998円、新興国ソブリン・豪ドルファンド(毎月決算型) 999円、新興国ソブリン・ブラジルレアルファンド(毎月決算型) 999円、新興国ソブリン・ファンド(為替ヘッジあり/毎月決算型) 999円、US短期ハイ・イールド社債ファンド(為替ヘッジあり/毎月決算型) 102,434円、US短期高利回り社債ファンド(為替ヘッジあり/年1回決算型) 1,994円、ロボット・テクノロジ関連株ファンド - ロボテック- (為替ヘッジあり) 39,849円、ロボット・テクノロジ関連株ファンド(年1回決算型) - ロボテック(年1回) - (為替ヘッジあり) 3,985円、iFreeレバレッジ S & P 500 9,976,058円、ダイワ上場投信-日経平均レバレッジ・インデックス6,480,317,774円、ダイワ上場投信-日経平均ダブルインバース・インデックス3,588,745,910円、ダイワ上場投信-TOP1Xレバレッジ(2倍) 指数1,873,252,277円、ダイワ上場投信-TOP1Xダブルインバース(-2倍) 指数602,505,046円、ダイワ上場投信-日経平均インバース・インデックス3,957,907,355円、ダイワ上場投信-TOP1Xインバース(-1倍) 指数3,685,167,742円、ダイワ上場投信-JPX日経400レバレッジ・インデックス323,527,433円、ダイワ上場投信-JPX日経400インバース・インデックス2,008,932,965円、ダイワ上場投信-JPX日経400ダブルインバース・インデックス208,181,200円、ダイワ米国投資法人債ファンド(為替ヘッジあり) 2016-07 997円、ダイワ米国投資法人債ファンド(部分為替ヘッジあり) 2016-07 997円、ダイワ米国投資法人債ファンド(為替ヘッジあり) 2017-06 997円、ダイワ米国投資法人債ファンド(部分為替ヘッジあり) 2017-06 997円、ダイワ米国投資法人債ファンド(為替ヘッジあり) 2016-10 997円、ダイワ米国投資法人債ファンド(部分為替ヘッジあり) 2016-10 997円、ダイワ日本株式ベア・ファン

ド(適格機関投資家専用) 3,619,070,901円、低リスク型アロケーションファンド(金利トレンド判断付き/適格機関投資家専用) 199,401,795円、ダイワ日本国債15-20年ラダー型ファンド・マネーポートフォリオ - S Lトレード - 56,086,003円、ダイワ/モルガン・スタンレー新興4カ国不動産関連ファンド-成長の権音(つちおと) - 5,020,480円、ダイワ/ハリス世界厳選株ファンド・マネー・ポートフォリオ168,192,739円、ダイワ・アセア内閣関連株ファンド・マネー・ポートフォリオ151,817,656円、低リスク型アロケーションファンド(適格機関投資家専用) 13,958,125,625円、通貨選択型ダイワ/ミレアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファンドII 豪ドル・コース(毎月分配型) 595,106円、通貨選択型ダイワ/ミレアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファンドII ブラジル・レアル・コース(毎月分配型) 987,373円、通貨選択型ダイワ/ミレアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファンドII 通貨セレクト・コース(毎月分配型) 494,581円、ダイワUS短期ハイ・イールド社債ファンド(為替ヘッジあり/年1回決算型) 9,957円、ダイワ米国バンクローン・オープン(為替ヘッジあり) 997円、ダイワ米国バンクローン・オープン(為替ヘッジなし) 997円、ダイワ新グローバル・ハイブリッド証券ファンド(為替ヘッジあり) 997円、ダイワ新グローバル・ハイブリッド証券ファンド(為替ヘッジなし) 997円、ダイワ/ミレアセット並細亜株ファンド9,958,176円、<奇数月定額払出型>ダイワ先進国リートα 為替ヘッジあり49,806円、<奇数月定額払出型>ダイワ先進国リートα 為替ヘッジなし49,806円、通貨選択型ダイワ/ミレアセット・グローバル好配当株α(毎月分配型) 米ドル・コース1,989,053円、通貨選択型ダイワ/ミレアセット・グローバル好配当株α(毎月分配型) ブラジル・レアル・コース2,978,118円、通貨選択型ダイワ/ミレアセット・グローバル好配当株α(毎月分配型) 通貨セレクト・コース1,691,241円、ロボット・テクノロジ関連株ファンド(年1回決算型) - ロボテック(年1回) - 100,588円、ダイワ先進国リートα 為替ヘッジあり(毎月分配型) 399,083円、ダイワ先進国リートα 為替ヘッジなし(毎月分配型) 99,771円、通貨選択型ダイワ先進国リートα 円ヘッジコース(毎月分配型) 399,083円、通貨選択型ダイワ先進国リートα 通貨セレクトコース(毎月分配型) 99,771円、ダイワ/ミレアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファンド(為替ヘッジあり) 1,091,429円、ダイワ/ミレアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファンド(為替ヘッジなし) 315,004円、ダイワ/ミレアセット・アジア・セクターリーダー株ファンド10,009,811円、ダイワ日本株ストラテジーα(通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ- 日本・コース(毎月分配型) 398,764円、ダイワ日本株ストラテジーα(通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ- 豪ドル・コース(毎月分配型) 99,691円、ダイワ日本株ストラテジーα(通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ- ブラジル・レアル・コース(毎月分配型) 398,764円、ダイワ日本株ストラテジーα(通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ- 米ドル・コース(毎月分配型) 398,764円、ダイワ日本株ストラテジーα(通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ- 通貨セレクト・コース(毎月分配型) 1,993,820円、通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド - イーグルアイII - 予想分配金提示型 日本・コース300,273円、通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド - イーグルアイII - 予想分配金提示型 豪ドル・コース200,861円、通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド - イーグルアイII - 予想分配金提示型 ブラジル・レアル・コース300,273円、通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド - イーグルアイII - 予想分配金提示型 米ドル・コース1,999,177円、通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド - イーグルアイII - 予想分配金提示型 通貨セレクト・コース505,900円です。

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は10,022円です。

# ダイワ・マネーストック・マザーファンド

## ■損益の状況

当期 自2017年12月12日 至2018年12月10日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 21,014,406円
受取利息	30,196
支払利息	△ 21,044,602
(B) 有価証券売買損益	△ 2
売買損	△ 2
(C) その他費用	△ 16,468,861
(D) 当期損益金(A + B + C)	△ 37,483,269
(E) 前期繰越損益金	91,400,424
(F) 解約差損益金	△184,462,233
(G) 追加信託差損益金	220,618,947
(H) 合計(D + E + F + G)	90,073,869
次期繰越損益金(H)	90,073,869

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。